

手足口病

手足口病は子供を中心に夏に多くみられる病気で、病名のとおり、手（手のひら）や足（足の裏）や口（口の粘膜）に水疱ができます。過去 10 年を振り返ると、2015 年、2017 年、2019 年、2022 年には警報開始基準値である定点当たり報告数 5.0 を超える流行がありました。2024 年は第 25 週に定点当たり報告数が 7.04 となり、5.0 を超えました。流行期は初夏から初秋にかけてですが、2024 年は 5 月下旬から流行の兆しがあり、例年よりも早い流行期入りとなっています。

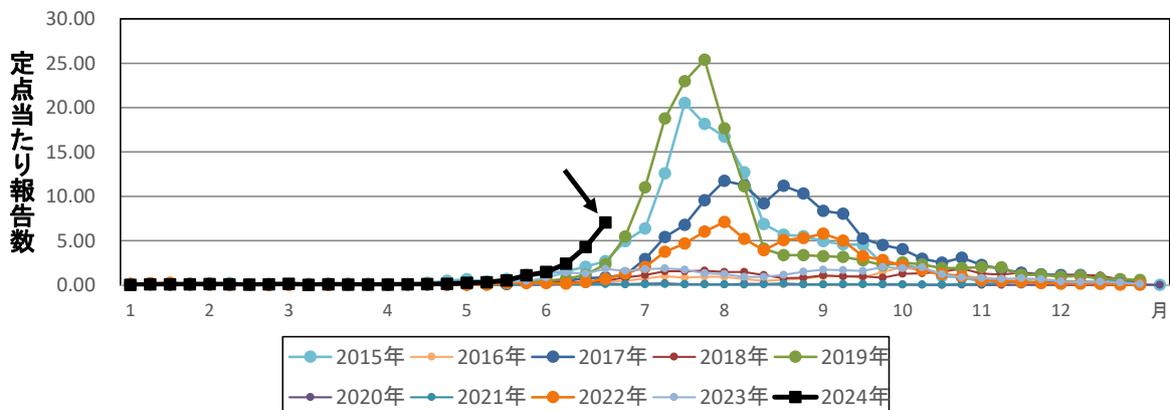


図1 過去 10 年の手足口病定点当たり報告数（埼玉県）

手足口病の原因となるウイルスは主にコクサッキーウイルス A6 型、A16 型、エンテロウイルス A71 型などで、流行の中心となるウイルスは年によって変化します。2024 年は 5 月に採取された検体から 9 件のコクサッキーウイルス A6 型が検出されました。コクサッキーウイルス A6 型は、流行の大きかった 2015 年、2017 年、2019 年、2022 年にも多く検出されている型になります。

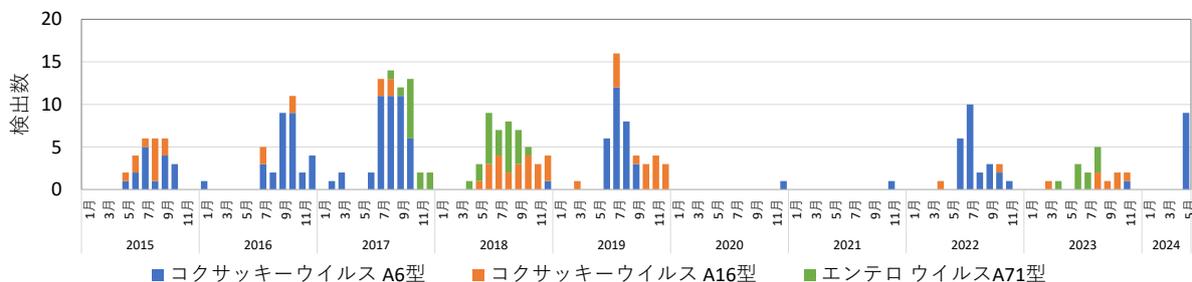


図2 手足口病からの主なウイルス検出状況（埼玉県）

手足口病の原因ウイルスの感染経路は飛沫感染、接触感染及び糞口感染であり、予防には手洗いの励行や排泄物の適切な処理が重要です。

病原体定点医療機関の先生方には引き続き検体採取へのご協力をお願いします。